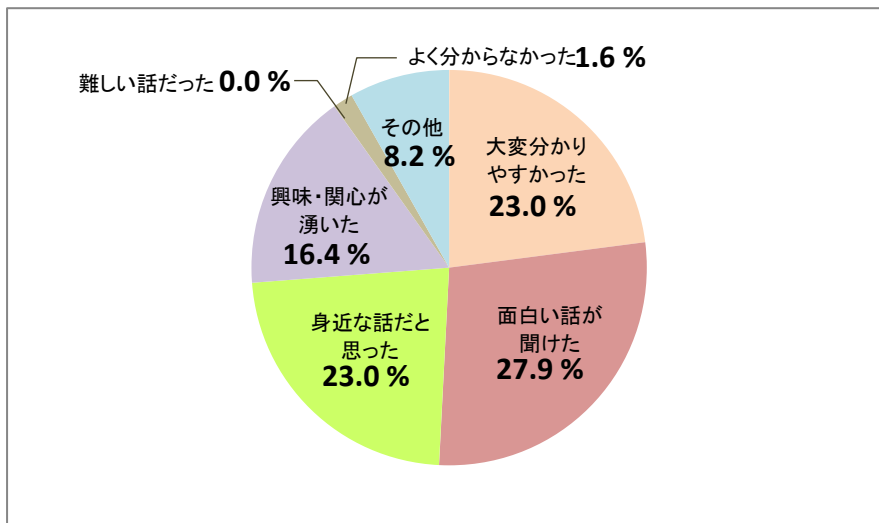
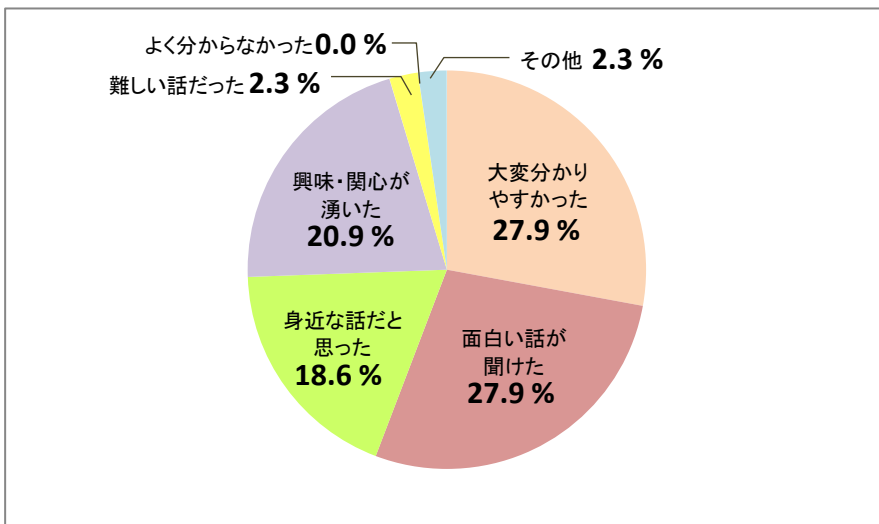


◆ 山田 昌弘 氏の基調講演を聞いた感想について



- ・社会学が身近に感じられ勉強になった。もっと内容を知りたいと感じた。
- ・なぜ女性が働かないといけないのかという理由がよくわかった。
- ・データを使用した説明だったので、理解しやすかった。
- ・自分や自分の子どもにとっても大事な問題だと思った。

◆ パネルディスカッションを聞いた感想について



- ・パネリストのみなさんが、子育てをしながら研究をされていることがすばらしいと感じた。

## ◆この講演・シンポジウムで一番印象に残っていること

- 家族の役割と分担、仕事のやりがいと前向きな気持ちが成功の原理となること
- 医療現場で働く女性の大変さ、夫や両親の力を借りては、仕事と家庭の両立が難しいということ
- 先生方が子育てをしながら、さらに専門的な学習や研究にご尽力されていること
- 女医である方は、常に意識（男女共同参画ということ）を持って将来につなげるべく努力されている
- 働き続ける女性医療者の現実と問題点
- 未婚、晩婚化が深刻であり、男性の所得が低いこと
- 結婚しない、できない人々の増加
- 地域で子育てを支える仕組みが大切であるということ—保育時間、病児保育、学園、PTA
- 中間管理職や女性管理職は気を遣っている
- 働き方の多様化⇒個人では解決できない⇒公的支援が必要ではないか
- 山田先生の「地球上の女性を侮った国は発展しませんでした」という言葉

## ◆今後取り上げて欲しいテーマ

- 女性の負担軽減の取り組み事例
- 夫婦の役割分担
- 高齢者社会を迎え、介護負担の軽減を図るため、男性の生活的自立を図るテーマ（樋口恵子さん）
- 高齢者のロコモ対策や体力減退と看取り
- 若い世代の子育て、高齢化社会にむけてシニア世代の男女共同参画
- 今、子育て真最中若い方々の考えが変化して、専業主婦を希望される割合が高くなっている理由
- 女性の仕事継続の妨げは何か（解決策を考える）
- 「職場の現状課題」にとどまらず、それを解決する”具体策”を提示、議論
- 中間管理職の現状（男女中間管理職（医療職以外でも）の方々のパネルディスカッション）

## ◆その他の意見 等

### （講演・発表について）

- どの分析も男女共同参画の社会は大変で、一人前にはいかないのだと痛感したが少しずつ進んでいる。明るい光が見えた。
- パネリスト4名の方のお話を聞いて、男女共同参画が一部では進みつつあると感じた。
- 奈良医大の取り組みが良かった。このような方向性でやっていくと医者が育つのではないかと思う。—中高生への取り組み（医者が育つきっかけ作り）
- 8期生の梅田先生が子育てをしながら積極的に仕事をされているということに感激した。女性が働き続けるためには、梅田先生のような女性医師のロールモデルが必要だと思う。
- 多くのデータを使用した話で分かりやすかった。

### （シンポジウム全体について）

- このままシンポジウムを続けてほしい。
- 久しぶりに充実したシンポジウムに参加できた。
- 主婦の暮らしの中では聞くことのないようなシンポジウムに参加できて嬉しい。
- さすが大学のシンポジウムだと感じた。男女共同参画に興味を持つ者として、多くの学びがあった。これからも地域や家庭に生かしていきたい。

- 医学生や若い人にももう少し来てほしい。

#### (その他意見、感想について)

- 法律の整備だけではうまくいかない。
- 女性のキャリアを様々な形でサポートし、働き続ける環境をより整える必要がある（男性も）。
- フルタイムの過重労働の正規職員と低賃金の非正規職員の二者択一しか許されないような硬直化した働き方が一番の問題だと考える。
- 現状はなんとなく分かったが、どうしたらいいか分からない。時代、社会の傾向はどんどん変わるので、大きな方法の方向性が臨機応変に対処できる方策があるといい。
- 女性が社会をしっかりと見るためにも、学んだこと、取得した資格を生かして働き続けることが必要だと思う。
- 夫婦で教師をしており、育休もない頃に出産し、子育てにも苦勞したが、働きたいと思い頑張った。女医さんも頑張っていらっしゃることが分かり、これから男女共同参画社会にむけて、頑張りたいと思う。
- 自分自身について考えるのに、とても有意義だった。
- 自分の職場をまず変えると決意した。